

3月下旬に実施予定の藤沢市の中学校の江の島野外活動では、磯の生き物と地質・地形を見て回ります。地質や地層は一応私の専門なのである程度説明できる自信がありますが、磯の生き物のほうはあまり自信がありません。当日は当研究所から生物の専門家が2人も参加するのですが、やはり自分も一通りの知識を持っておいたほうが安心です。

磯の潮間帯（潮汐によって水面下になったり水面上に出る場所、またはその周辺）の生き物は非常に多様で「属」や「科」レベルではなく、「目（もく）」や「綱（こう）」も飛び越して「門」レベルにまで及びます。その中でもおびただしい個体数なのが「節足動物門」の生き物です。節足動物は地球上の動物の中でも、種類、個体数ともダントツで、種数では動物の約85%を占めると考えられています。内骨格よりも外骨格（殻）が発達しているのが特徴の一つです。昆虫をはじめ、カニやエビなどの甲殻類（甲殻亜門）は節足動物の代表です。

磯にも甲殻類はたくさんいます。中でも目立つのが「カメノテ（亀の手）」と「フジツボ（富士壺）」です。フジツボは多くの科や属があって同定（種名の決定）が難しいですが、カメノテは1属1種で、似た形態の生物もあまりいないので、見間違ふことはありません。岩にへばりついている姿ではよくわかりませんが、無理に掘り出すと、全体が亀の手のような形をしています。なかなか美味で、四国や九州では好んで食用にされるそうです。

（2024年2月下旬／神奈川県藤沢市・江の島南東海食台）

